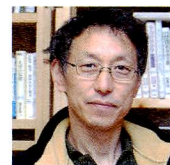


Title	記憶を紡ぐ晩夏
Author(s)	敷田, 麻実
Citation	Wildlife Forum, 15(1)
Issue Date	2010-08-10
Type	Article
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/16973">http://hdl.handle.net/10119/16973</a>
Rights	Copyright (C) 2010 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, Wildlife Forum, 15(1), 2010, DOI: 10.20798/wildlifeforum.15.1_i. <a href="http://dx.doi.org/10.20798/wildlifeforum.15.1_i">http://dx.doi.org/10.20798/wildlifeforum.15.1_i</a>
Description	

# 「記憶を紡ぐ晩夏」



文と写真 敷田麻実（野生生物保護学会会長）

夏の終わりは後悔とともにやってくる。もう少し夏休みが長ければ、と悔しい思いをした経験は誰にでもあるだろう。せっかくなの出会いが中途半端に終わり、残念に思うこともあるだろう。あれもすればよかった、こうしておけばよかった、そう思った時に胸の奥に残る悔しい思いは、せくようなつくつくぼうしの鳴き声と重なる。

しかし、できなかったことが必ずしも苦い記憶となるのではない。夏の甘く切ない出会いの記憶も、太陽の光が頼りなげになると美しい記憶に生まれ変わる。それは美化ではなく、記憶の醸成だ。

時間に余裕がある夏は、体験を豊かにする時期である。調査に出かける機会も多い。フィールドでの体験や出会いは、これから先の人生にとってかけがえない財産となるだろう。

だが、効率よく体験することに傾注してはならない。手を休め、フィールドの野草に目を留め、「みちくさ」を試みようではないか。効率の追求は、日常生活の中の携帯電話やメールで十分だ。

人生は美しい思い出で紡がれる。



晩夏の落日（北海道美瑛町）